

# やりみち

.... 被災地支援情報 ....

第85号 発行日 2006.7.12  
被災地NGO協働センター

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10  
tel: 078-574-0701 fax: 078-574-0702  
URL <http://www.pure.ne.jp/~ngo/>  
e-mail ngo@pure.ne.jp  
口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

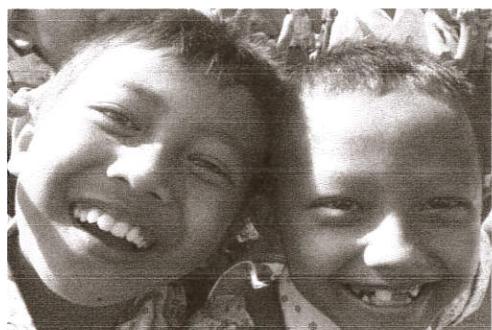
過去を問い合わせ、「いま」と向きあう、そして未来へ・・・

代表 村井 雅清

以下の写真はCODE海外災害援助市民センターの第一次先遣隊が調査に行った被災地ジャワ島のジョグジュカルタの様子



ガレキの上の洗濯物



子どもたちの笑顔



世界遺産のプランバナン遺跡

## ■はじめに

11年前の阪神・淡路大震災以来、「最後の一人まで救おう」「たった一人を大切に」とメッセージを送り続けてきた。また世界中を震撼させた「9・11」以降も、無辜なる市民を犠牲に巻き込まないようにと訴えてきた。この根底にあるものは、震災で学んだ「命は尊い」ということである。讀賣テレビさんが保存していた11年前の避難所で一人の女性が泣きながら語っているのを、先日見る機会があった。「人間は一人では生きて行かれへん」ということがこの地震でようわかった! とその女性は言われた。

さて、当センターも連携し活動しているCODE海外災害援助市民センターは、今ジャワ島中部地震救援活動を展開しているが、震災以来こうした海外の災害救援の活動を興すのは40回目となっている。実に災害が多発しているかが伺える。災害の規模が大きくなっていることが気がかりであるが、究極は一人ひとりの命をどう守れるのかということに尽きるような気がする。

第二次世界大戦後、国家の安全保障が国際社会の共通テーマであったのが、今では「人間の安全保障」が大テーマとなっている。それは、一人ひとりの命が大事だということが最優先されなければならないことが分かったからである。私たち、阪神・淡路大震災をきっかけに「命」のことを考えたり、活動をしている者にとっては、このこと

は当たり前のこととして受け止めている。また、少なくともこれまで災害に見舞われた被災地の人々は同じ思いで受け止めているであろう。

しかしながら、国際社会においては、紛争・飢餓・自然災害・伝染病や感染病・麻薬・薬禍・貧困などの不安から解放されることはない。日本国憲法に謳われているように「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有する」ことが保障されなければならないのにもかかわらず、一人ひとりは日々「恐怖と欠乏」に襲われているのだ。

しかし、現状は何も変わらないばかりか、さらに悪化しているようにも見える。一体どうすればいいのだろうか。その解決の道筋を見出すために、もう一度この11年間といまを振り返る必要があると痛感している。何故ならば、私たちはこの間、先達から語り継がれてきた大切なことも、可能な限り自分のものとしながら、またそれらをも次世代に継承していくなければならないからである。この作業を丁寧に行なうことが、少しでも「いま」に対する解決方法の発見につながると思うからである。

最後に、自然災害といっても環境破壊の影響による人的災害も少なくない。「命を守る」ために、自然環境を守ることの重要性も、あらためて認識したい。



## ～2006年度の被災地NGO協働センターの事業方針～

## ■事業概要

阪神淡路大震災後の経験をもとに、身近なところでの人間の安全保障の具現化（たった一人の命を大切にする）を意識した事業を実施する。「寺子屋事業」「提言・ネットワーク事業」「まけないぞう事業」「災害救援事業」が主な事業となる。

## 1. 寺子屋事業

2000年に寺子屋を始めてから、毎年内容の濃いテーマで寺子屋を開催してきた。前年度提案したとおり一つのテーマで4回程度の開催を目指す。

## 2. まけないぞう事業

寺子屋事業同様、当センターの主たる事業として位置づけてきた。採算性については厳しい状態が続いているが、生産を押さえつつも作り手である被災者が「まけないぞう」の存在を必要とし、支えあいの輪を広げている。「まけないぞう」は、阪神・淡路大震災後の復興のシンボル・グッズとして有名になっており、震災の経験を「語り継ぐ」ためのツールとも言える。メディアとして「まけないぞう」がここまで広がってきた経緯を考えると今年度も継続させていく。

## ～2006年度の被災地NGO協働センターの決算・予算～

被災地NGO協働センター 2005年度決算(実績) 2005.4.1～2006.3.31		
収支		
項目	予算	決算
会員収入	300,000	363,336
事業収入	2,603,000	3,800,023
寄付金収入	120,000	120,000
助成金収入	463,000	942,717
受取利息	0	173,655
販売収入	100,000	306,849
旅費	1,000,000	2,006,879
事務費	1,200,000	357,718
助成金	140,000	140,000
販売料	3,240,000	2,447,505
販売税	10,000	0
販売手数料	3	3
販売手数料	190,593	890,597
販売合計	7,501,469	7,501,469

被災地NGO協働センター 2006年度予算(予算) 2006.4.1～2007.3.31		
収支		
項目	予算	決算
(スタッフ活動費)	2,000,000	2,880,000
スタッフ活動費(専用)	1,140,000	1,440,000
スタッフ活動費(アルバイト)	1,420,000	860,324
(事務費)	500,000	2,717,587
寺子屋事業	2,805,717	480,000
提言・ネットワーク事業	58,000	58,000
代理活動費	58,000	58,000
旅費	540,000	516,520
旅費交通費	312,000	288,000
電話代	300,000	381,210
通信運搬費・搬込手数料	120,000	76,443
水道光熱費	40,000	39,158
事務用品・消耗品費	680,000	690,000
事務用品費	60,000	55,385
郵便料	55,400	55,400
印刷費・記録費	20,000	19,700
図書購入費	20,000	21,166
修繕費	30,000	30,000
支払利息	30,000	70,983
苗字仕入	20,000	0
販賣	100,000	6
(予備費)	837,013	833,558
次期預金	7,043,600	7,501,469
支出計	7,043,600	7,501,469

被災地NGO協働センター 2006年度予算(予算) 2006.4.1～2007.3.31		
収支		
項目	予算	決算
事業収入	1,000,000	1,058,588
寄付金収入	80,000	212,145
収入計	1,080,000	1,240,734
支出計	1,080,000	1,240,734

被災地NGO協働センター 2006年度予算(予算) 2006.4.1～2007.3.31		
収支		
項目	予算	決算
支払	240,000	145,380
旅費	12,000	0
車両委託費	20,000	30,540
旅費交通費	12,000	11,837
車両運用費	64,000	64,710
通信運搬費	30,000	20,575
料理費	5,000	0
平野用品・消耗品費	36,000	38,310
材料費	138,000	77,500
参加協力費	0	735
旅費	5,000	0
販賣	10,000	10,000
販賣消耗費	483,000	842,147
手数料	0	0
出金	1,080,000	1,349,734
支出計	1,080,000	1,349,734

被災地NGO協働センター 2006年度予算(予算) 2006.4.1～2007.3.31		
収支		
項目	予算	決算
事業収入	450,000	635,059
寄付金収入	30,000	253,185
助成金収入	170,000	185,455
収入計	850,000	1,053,148
支出計	850,000	1,053,148

被災地NGO協働センター 2006年度予算(予算) 2006.4.1～2007.3.31		
収支		
項目	予算	決算
スタッフ活動費	600,000	858,800
旅費	5,000	0
旅費交通費	10,000	32,600
車両運搬費	10,000	0
通信運搬費	5,000	130
事務用品・消耗品費	5,000	10,383
材料費	10,000	173,835
修繕費	0	0
手数料	0	0
予備費	0	0
総括金	850,000	1,053,748
支出計	850,000	1,053,748

## 3. 提言（アドボカシー）・ネットワーク事業

振り返ってみれば阪神・淡路大震災の時には、その「つながり」と「支えあい」があったが、今あらためてこれを再現することが求められている。提言・ネットワークの最終ゴールは、個人の尊重、自己主張ができる市民主体の市民社会を形成しながら「安心で、安全な社会をつくる」ということだが、まず安心できる社会を築くことが重要だ。10年目の神戸宣言で掲げた「最後の一人まで」という考え方を基軸に、震災の経験や教訓を生かし語り継ぎつつ、日々の具現化に努めていきたい。

## 4. 災害救援事業

事業の性格上予め予測して体制がとれず、その専門性を持った「震災がつなぐ全国ネットワーク」や「CODE海外災害援助市民センター」などとの連携を前提にしながら事業を実施する。災害の経緯によっては当センター単独での救援活動を展開することも考慮しておく。

被災地NGO協働センター  
2006年度予算(予算)  
2006.4.1～2007.3.31

1.一般会計 【収支の部】		
項目	金額	内訳
会員収入	300,000	
事業収入	2,417,400	
	80,000	寺子屋事業
	637,400	お問い合わせ事業
	9	研究開発事業
	200,000	震災等支援
	1,000,000	旅費
寄付金収入	2,049,000	旅費
助成金収入	10,000	旅費
受取利息	3	旅費
貯蓄金	983,558	旅費
収入計	5,750,961	旅費

1.一般会計 【支出の部】		
項目	金額	内訳
(スタッフ活動費)	2,150,000	
スタッフ活動費(専用)	1,800,000	@15,000*12ヶ月*1人
スタッフ活動費(アルバイト)	350,000	@30,000*12ヶ月*1人
(事業費)	868,000	
寺子屋事業	80,000	
研究開発事業	500,000	
旅費	288,000	旅費
(管理費)	2,425,049	
代表活動費	480,000	@40,000*12ヶ月
福利厚生費	58,000	@5,000*12ヶ月
旅費	540,000	@45,000*12ヶ月
酒店旅費	24,000	@2,000*12ヶ月
電話代	240,000	@20,000*12ヶ月
水道光熱費	84,000	@7,000*12ヶ月
事務用品・消耗品費	60,000	@5,000*12ヶ月
事務用品・消耗品費	60,000	@5,000*12ヶ月
印刷用紙	52,700	
修理用機器	20,000	PCレンタル費用
支払利息	6,349	
旅費	50,000	
苗字仕入費	20,000	
旅費	20,000	
(予備費)	100,000	
次期総額金	197,912	
支出計	5,750,961	

2.特別会計 【収支の部】		
項目	金額	内訳
事業収入	1,000,000	
寄付金収入	80,000	
収入計	1,080,000	
支出計	1,080,000	

3.災害救援事業 【収支の部】		
項目	金額	内訳
事業収入	720,000	
収入計	720,000	
支出計	720,000	

3.災害救援事業 【支出の部】		
項目	金額	内訳
スタッフ活動費	800,000	@50,000*12ヶ月*1人
宿泊代	48,000	
水道光熱費	24,000	
旅費	8,000	
修理用機器	40,000	
総括金	0	
支出計	720,000	

# 吉椿雅道のつぶやきレポート 仮設の風景

新潟県中越せき震の被災地から

## ■仮設のつぶやき

皆さんの記憶からも薄れゆく中越地震ですが、長岡に行っていた吉椿から仮設訪問の際にひろった「つぶやき」レポートを引き続きご紹介します。今後も不定期ですが、お伝えできると思います。これを機会にまた新潟へも想いを寄せて下さい。

## ■つぶやきパート4

集会所で何かやるといつも仲良く夫婦そろって顔を見てくれるSさん（70代）夫婦。もともと地元、長岡の方ではないせいか、集会所で他の方がいてあまり親しそうに話をされる姿をあまり見たことがない気がする。奥さんは以前から不整脈と喘息を患っており、旦那さんはお兄さんの介護をして腰を痛めそうで、歩くのもつらそうだ。

先日、仮設のお宅に初めてお邪魔した。ドアを開けるとすぐに山積みになった荷物が目に入った。「ここには長くいたくないから、すぐに出せるように運んだままの状態にしている」と。また、「以前ボランティアさんが来て結露が出ないように工夫してくれたのはいいけど、ここが居心地のいい場所になってはいけないんだ」とか、「内にはちゃぶ台がないんだよ。敢えて買わないようにして自分を戒めているん

だよ」とも言っていた。地震の恐怖からガスは使わないようにしていて、食事は外食、風呂も近くの銭湯に行っているそうだ。ここにはいたくないから昼間は部屋にはほとんどいないようにしているそうだ。いずれは関西の親戚を頼って移転を考えていたが、数ヶ月前に亡くなってしまい行き場を失ってしまったとこぼされていた。

この日は、普段、人前で見せる穏やかな表情とは少し違うSさんだった。仮設の扉の向こうにはこんな風景がある事すら想像しなかった。

## ■つぶやきパート5

古き良き日本人とは、この人の事を言うのだろうか、Oさん（85）は、非常に腰が低く、その場に正座してご挨拶をしてくれる。集会所に入るとまず、正座して身につけていた毛糸の帽子と手袋を丁寧にたたんで、持参してきた風呂敷に包んで端に置く姿が印象的な方である。「すいません、また足湯にやってきました」と申し訳なさそうに言われる。足湯をしながらお話をすると、実は、地震後に避難所でご主人を亡くされている。「地震で家も失って、おじいちゃんも失ってしまった」とばつりと言われた。

息子さん達が、近くにいるので時折顔を見てくれ、買い物に連れて行つ

てくれるそうだ。

「一人でいるとボーッとしてしまうので、こうやって出てきて皆の話を聞くのが楽しみなんです」と。あの古き良き「たしなみ」を身に附いている方がこれからもイキイキと生きていくつもりたいものである。。。

## ■つぶやきパート6

これまで一度も足湯などの集会所のイベントには顔を出した事のない50代後半の男性がいる。以前にも少し話したことがある。彼は集会所でイベントがあると周りをウロウロしている。声をかけても中に入ろうとはしない。阪神・淡路大震災の仮設でもよくあった光景だと思う。

震災後、リストラにあい、今は何も仕事をしておらず、その為に酒の量が増え、奥さんに暴力を振るい、というような話は決して阪神の時も少なかったようだ。ふと、彼の姿がダブる。一見寂しそうな仕草を見せるが、それでも以前は仮設の隣近所の雪がこいを作つてあげたり、雪かきをしてあげていたようだ。最近はあまり付き合いがないこと。近所付き合いが苦手で、敢えてこの仮設に来ている人もいるという話を以前聞いた事を思い出した。仮設にはいろんな風景がある。

## 神戸の事務所で集めています！

被災地NGO協働センターでは、以下のようなものを集めています。活動の補助として使わせて頂いておりますので、お手持ちで使っていないものがありましたら、ご協力下さいますようお願いします。

### ◎テレホンカード（未使用のもの）

家や職場で眠っているテレホンカードはありませんか？最近では携帯電話の普及で出番が少なくなった、という方も多いかもしれません。当センターでは、こうしたテレホンカードを集めて、出張時の通話や一般回線の通話料の支払いなど、電話代の補助として利用させていただいています。集めているのは未使用のものです。

### ◎未使用ハガキ・書き損じハガキ

みなさまのお宅では、使わなかつたハガキや書き損じのハガキはどうなさっているでしょう？こうしたハガキは郵便局で手数料を支払えば交換してもらえるのです。年賀状の余りなどございましたら、お送り下さい。

### ◎「一本のタオル運動」

今でも電話でお問い合わせを頂きますが、以前から呼びかけている「一本のタオル運動」、現在も継続しております。集めているのは新品の浴用タオルで「まけないぞう」の材料となります。一部は災害救援時の資材としても還元しています。

# 海外の現場から



スリランカより



05年2月の津波から2ヶ月後  
何もかも流されてしまった様子

1月20日に、UNV（国連ボランティア計画）ボランティアとして、CODEがスリランカで行う防災教育をサポートして下さっているスリランカに着任した濱田久紀さんからのレポートを引き続きお送りします。

## <クキさんからのレポート2>

『ボランティアをするというのは何なのか？』こんな質問が頭をよぎった

一日でもあった。先日、こちらのボランティアの子どもたちに「なぜボランティアをしようと思ったのか、土曜日、日曜日を自分たちの時間を削ってでもボランティア活動をしようと思った理由は何なのか？」と、UNDPの方が聞いたことがあった。大人に聞いてもなかなか答えられない難しい質問である。子どもたちも少々戸惑っていたように感じられたが、「歌が好きだから。」、「ちいさい子どもが好きだから。」、「踊りが好きだから。」等があがつた。多分、質問者の期待していた答えと若干違ったかもしれないが、これが正直な彼らの気持ちであり、それ以上でも以下でもないと思う。ボランティアという観念？は、西洋から持ち込まれたものであり、彼らの地域で、隣の家が隣の家の子守をするのは日常生活に組み込まれている。

困った時に手を差し伸べるのも当たり前のことであり、支えあい、助けあい自体が自然になされているのではないかと感じる。それが「ボランティアなのですよ。」と言ったところで、この言葉は後から作られた

もので、元々から彼らの中にあるものだと感じる。ボランティアをしようと思った理由など本当はないのだろう。そう思うと、以前から考えている、『人間は元々ボランティアとして生まれている。』ということが、しっくりくる。物がなければないほど、足りなければ足りないほど、このボランティアという人間の生まれてもっている本質が發揮？されるのではないか。だから、あのKOBEの震災の時、何もかも失ってしまって、皆がボランタリーな活動を自然と、何も考えずにできたのではないかと思う。



05年1月瓦礫のなかで立ちつくす家族

～被災者はゼロもしくわマイナスからのスタートを余儀なくされる～

パキスタンより

前号に続き、11/25～12/5のパキスタン第1次調査に通訳として同行したCODEのアルバイトスタッフ岡本千明（大学生）のレポートを数回に分けてお送りします。

## <ムザファラバード>

アザド・ジャンム・カシミール州のムザファラバードという街の様子です。拠点としている街マンセラからムザファラバードへの道は絶えず曲がりくねった山道で壊れてはいませんでしたが、カシミールへ入ると家屋の損壊が目立つようになりました。

ムザファラバードでは、バラコットのように全壊家屋より半壊がほとんどです。大学跡地のテント村周辺には、瓦礫を集めて立てた掘っ立て小屋でチャイ屋、八百屋、果物屋、食堂などが再開し賑わっています。山の手の方に歩いていくとかなり崩壊して、お墓を作っている人も見かけられます。

偶然出会った府機関のコンピュータ・オペレーターのアリさん（29歳）とい

う男性が通訳をしてくれることになりました。彼は地震が起きた時は建物の外にいたので助かったのですが、家族を亡くしました。残った彼の家族は現在イスラマバードの親戚の家にいます。話してみると、ほとんどの人は、政府の指示を待っているのだと言います。何か今後の計画はありますかと聞くと、お金がないからどうすることもできない。できるなら帰って家を建て直したいという人もいれば、政府がここへ行けと家を用意してくれるのであればどこへでも行くという人もいました。

男性は働きに出て、テント村では主に女性や子どもたちが表で炊事をしたり遊んだりしていました。両親を亡くしておじさん家族と暮らしている姉妹。もとは学校を経営していたある男性。彼はけがをして左足が動かなくなりました。ここでは男性の職業は、トラックの荷の積み卸し、軍人、ホテルのレストランでウェイターなどです。労働者や自営業者の平均月収は4,000～5,000ルピー（約8,000～10,000円）ですが、アリさんのように政府系機関で働いていると10,000ルピー（約20,000円）以上になるそうです。

女性の職業は何ですかとある男性に聞いたらみな主婦だと答えたけれど、中学生・高校生くらいの女の子たちに聞くと、教師、医者、公務員なんかだよ、と言いました（この地域の就学率は高く80%だと思います）。

数日後同じテント村を訪れる「まけないぞう（神戸の被災者の方が復興の思いをこめて作ったぞうのぬいぐるみタオル）」がテントの支柱にぶらさがっていました。



【お問い合わせ/お申し込み】  
〒652-0801神戸市兵庫区中道通2-1-10  
TEL: 078-578-7744 FAX: 078-574-0702  
E-mail: info@code-jp.org  
URL: http://www.code-jp.org

# NEWS

## ジャワ島中部地震緊急募金開始

### <CODE救援プロジェクト開始>

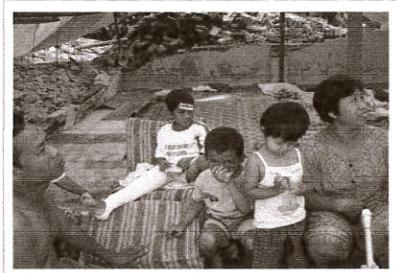
インドネシア・ジャワ島中部ジョクジャカルタ付近で、27日午前5時54分（日本時間同7時54分）に、マグニチュード（M）6.3の地震が発生しました。CODEでは5月28日、この度の地震を受けて、支援のための救援プロジェクトを開始することになりました。被災地では、6千人ちかくが犠牲になりました。全半壊は14万戸以上にのぼり、約64万人の被災者がテントや避難所生活を強いられています。第一次派遣として6月3日より1週間程度スタッフが現地に入り、調査を行い、今月末頃第2次派遣団が派遣される予定です。緊急救援を脱した、中長期的な復興を支援するため、現地の関係機関と連絡を取り合ながら、支援策を検討中です。被災地支援のための募金活動を開始しましたので、皆さまのご支援、ご協力よろしくお願ひ致します。

郵便振替：00930-0-330579

加入者名：CODE

\*通信欄に「ジャワ島中部地震支援」と明記してください。

募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充てさせていただきます。



### つぶやきレポート「インドネシア被災地の今」

ジョクジャカルタ市内から數十分も走ると最大の被災地、バントゥル県に入る。事前の情報では被災地への道は救援物資の運送や知人の見舞い、見物客などの車やバイクで渋滞だと聞いていたが、それほどでもなかった。バントゥル県の断層の上にあるブレレット郡も大きな被害を受けた。ウォノクロモ村のジャティー集落（25世帯）に住む、エムダルスさん（64）とソウリキさん（66）の兄弟は、ガレキの山の中から使えるレンガを拾い集めていた。1953年に建てたという自宅は全壊し、後に91年に増築した母屋は鉄筋を使っていましたが、被害はありませんでした。政府からの支援はないので兄弟、親戚で助け合って暮らしているという。辛うじて残った台所の壁を見てみると、やはりレンガとレンガのつなぎは土で、指でさわるとボロボロと取れてしまう。レンガも決して強いとは言えないのうだ。エムダルスさんはそんな僕を見て、「昔のレンガは強かつたんだがな..最近のレンガは商業主義で質が悪い。昔は自分達で自分達の為にしっかりとした家を建てたもんだ。」と語った。

本来、ジャワでは木材を多くつかつた伝統家屋が主流だつた。70年代以降の木材の高騰により農村部では急速にレンガ造りの家屋に変わって行つたといふ。これは日本との関わりを考えざるをえないのではないか…

☆ ☆

## 第2弾「どうTシャツ」在庫一掃処分セール！



梅雨の晴れ間が恋しいこの季節みなさんのいかが  
がお過ごしでしょうか？

さて、まけないどう事業部では以前「どうTシャツ」を作成し、みなさまにもご協力頂きありがとうございました。去年に引き続きTシャツの在庫一掃処分セール第2弾を致します。

夏に向けて、この機会にぜひいかがですか？  
ぜひご協力の程、よろしくお願ひいたします。

色・サイズは

赤：Lのみ 青：Mのみ 緑：M・L

\*送料についてはご本人負担となりますので、予めご了承下さい。



問い合わせ：被災地NGO協働センター まけないどう事業部  
tel : 078-511-8698 fax : 078-574-0702

# ぞう 通信。

第37号 2006.7.12



発行所：純愛NGO活動センター 〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2丁10  
tel: 078-511-8698 fax: 078-574-0702 http://www.pure.ne.jp/~ngo/

あつという間に梅雨の季節となり、もうすぐ夏を迎えるとしています。毎年今年こそは災害が起きないこと願っているのですが、また5月にインドネシアのジャワ島で地震が発生し、多くの犠牲者が出てしました。災害をなくすなんてもちろん無理ですが、被害を軽減することはできると思います。もし日本と同じく規模の災害ならもう少し被害は少ないでしょう。でも発展途上国などは同じ規模で多くの被害が出ています。私たちが暮らすこの日本では「モノ」があふれ、大量生産・大量消費・大量廃棄が当たり前になっています。

でもその裏側でジャワ島のような熱帯の国から木材を大量に輸入し、現地では、違法伐採や農地開墾を行い、地滑りの一因ともなっています。6月5日付の毎日新聞では「同国の建造物の強度調査に詳しい国土交通省国土技術政策総合研究所の小林英之研究官は、被害がジョクジャカルタ特別州の農村部に集中した背景について『同州は木造家屋の伝統的地域だったが、木材資源の枯渇で資材が高騰し、貧困層を中心に粗悪なレンガを使った家屋が増えたためではないか』とみると」という指摘があります。それが今回被害を拡大させた一つの要因とも言えるかもしれません。同国では1月には地滑りが発生し、200人が生き埋めとなっています。

遠い日本に住んでいる私たちは他人事としてとらえるのではなく、間接的に私たち一人ひとりに責任があるのではないでしょうか？私たち身近な事柄から目を見てみませんか？それが遠くジャワ島の人たちの生活を支える一端となるかもしれません。生活をもう一度改めて考えてみませんか。

いつもあなたの

そばにいます ...

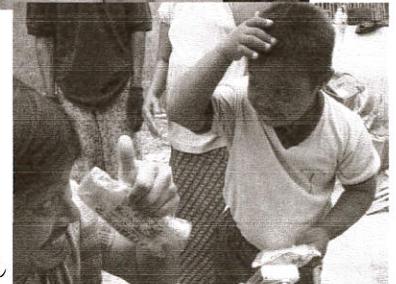
ジャワ島に届けられた「まけないぞう」



インドネシア語で「ぞう」は、「ガジャ」というそうです。



ダウントン症の7才の男の子、ぞうさんをとても喜んでくれて、ずっと臭いをかいていたそうです。  
どんな臭いがしたのでしょうか？？



作り手さんの

メッセージ

支援者の皆さまからの

メッセージ

インドネシア・ジャワ島での地震のニュースを聞き、おどろき、生徒から少しでもご協力出来たらという気持ちが大変強く出まして「まけないぞう」をいつでも結構ですのでよろしくお願いします。タオルも集まり次第送らせて頂きます。

東京都在住

この間、動物園に行って本物のぞうを見てきて「まけないぞう」を作るとき、目の位置をこうかな？もつとこつちかなと思いながら作つたので、今回はいろんな顔できちゃつたみたい・・・

沖縄の地滑りの状況を見ていると、家の中の大変なものなど取りに入りたいと思う。私も経験したから痛いほどわかる。本当にいたたまれなくなる。

大変ご無沙汰いたし申し訳ございません。  
今度はインドネシアで大変な事になっております。  
どうぞこのタオルでぞうさんを作つて下さい。

東京都在住

200 年 月 日

被災地NGO協働センター

代表 村井 雅清 様

2006年度 被災地NGO協働センター

## 入会申込書

当団体（私個人）は、被災地NGO協働センターの

1. 団体会員 として、会費 10,000円×
2. 個人会員 として、会費 3,000円×
3. 賛助団体 として、会費 10,000円×
4. 賛助個人 として、会費 3,000円×
5. 自由選択会員として、会費 \_\_\_\_\_ 円

（いずれかに○を記入の上、申込口数を記入してください）

として会員登録を申込します。

ふりがな 団体名			
ふりがな 氏名 (代表者)			
住所	〒		
TEL		FAX	
e-mail			
ホームページ	http://		
入会動機			
減免措置を受けますか？	1. いいえ 2. はい----理由：		
備考・その他			

\* e-mailアドレスをお知らせ下さった方には、被災地内外の情報やイベント案内などをお知らせや、会員相互の情報交換を行える被災地NGO協働センターメーリングリストにご参加いただけます。

\* ホームページをお知らせ下さった方は、被災地NGO協働センターホームページ(<http://www.pure.ne.jp/~ngo/>)のリンク集で紹介させていただきます。

\* メーリングリストの参加やホームページの紹介を希望されない方はその旨を備考欄にお書き下さい。

### <会員の種類について>

会員は団体会員と個人会員とし、各々に一般会員、賛助会員とします。

- 一般会員(正会員)：日常のセンター事業に対して、物理的にも事実上主体的に参加することのできる会員とします(原則として年一度開催される総会での議決権を有します)。
- 賛助会員：当センターの理念、目的、事業内容に賛同するも、物理的に参加できない会員とします(総会での議決権はありません)。
- 自由選択会員：NGOという性格上、独創的な発想で、かつ主体的にかつ自己完結のできる会員によって運営されることが理想であり、その実践として「自由選択会員」を設けます(総会での議決権はありません)。

※この入会申込書をそのままFAX頂くか、郵便で被災地NGO協働センター事務局までお送り下さい。また必要事項をe-mailでお送り頂いても結構です。

# 被災地NGO協働センター

## 入会のご案内

私たちは民間のNGOとして独立した運営をしていくために、一人一人の市民のみなさまと共にありたいと考えています。

ぜひ会員として被災地NGO協働センターをご支援ください。

### 会員種別について



一般会員  
個人  
¥3,000-

一般会員  
団体  
(議決権は1団体1票)  
¥10,000-

被災地NGO協働センターの日常の事業に対して、主体的に参加する会員です。総会での議決権を有します。



賛助会員  
個人  
¥3,000-

賛助会員  
団体  
¥10,000-

遠方に住んでいるなど普段の活動に参加できないながら、当センターの理念・目的・事業内容に賛同する会員です。総会での議決権はありません。



自由選択会員  
個人  
任意の額

自由選択会員  
団体  
任意の額

独創的な発想で、かつ主体的にかつ自己完結のできる会員。みなさんの自由な発想でNGOの特性を活かすべく、こうした会員種別を設けています。総会での議決権はありません。

被災地NGO協働センターの運営は、みなさまの会費や寄付金と事業収入で支えられています。

当センターの活動の主旨にご賛同頂ける方は、誠に恐縮ではありますが、裏面に「入会申込書」をつけさせて頂いていますので、〒・FAX・e-mailでご返信をお願いいたします。会費の入金については、お手数ですが同封の郵便振込用紙に必要な事項を記載の上、お近くの郵便局でお振込頂きますよう、よろしくお願ひ致します。

### 被災地NGO協働センター

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10

tel : 078-574-0701 fax : 078-574-0702 e-mail : ngo@pure.ne.jp

※すでに今年度分をお納め下さっている場合は、ご容赦ください。